

犬

岡本 悠

たくろう、は、動物の、生き方を知った

父の家系では、犬を飼っていた

父が犬をもらって飼おうと言う、兄、姉は賛成した

母とたくろう、は、反対した

しかし、いつの間にか、柴犬のオスが一匹やってきた

その晩、オス犬は、遠吠えを上げていた、淋しかったのだろう、怖いのだろう

そのオス犬に、兄とたくろう、は、影からお面をつけて現れたりして、脅かした

哀しそうな、遠吠えが響く、嵐の夜だった

オスはしばらくして、成犬になっていたが、父がペットショップかどこかで見つけた、顔のかわいいメスの柴犬を買ってきた

オスは庭、メスはまだ小柄なので家の中にいたが、たくろう、はこんなに体格の差があると、食っちゃうんじゃないかと心配した

翌日、なんのことはない、オスとメスはなにごともないように一緒に庭にいた

オスは、多少臆病だが、我慢強かった、

メスは、気は強いが、我慢弱かった

注射などでは、オスは耐えるが、

メスは3人がかりくらいでなんとか押さえて、悲鳴の中、やっとなんとか刺すという、有様だった

オスとメスは、よく首相撲をした

体格は違うのに互角だった、晩年はメスのほうが強く、オスは勘弁してくれと呆れるほどだった

オスとメスが、交尾した時、メスが泣くから、たくろう、は、母に大丈夫なのか？ と心配して、交尾で繋がっている2匹を離そうとしたが離れなかった、万力で繋がっていた、ただ、メスの悲鳴は響いた

メスは、まだ1歳だったが、12匹の子供を産んだ

1匹は死んだが、

オスはその時、足を噛む小犬たちに噛みつかんばかりに、吠えたと、メスがそれを手なづけた

そこに、オスの威厳は、あまり、感じられなかった

むしろ、メスが、無条件に子供を守る姿にひかれた

小犬たちは、それぞれ、違う家にもらわれていった

オスは、庭を好んだが

メスは、家の中を好んだ

オスは、家の中に入れても、外ばかり見ている、たくろう、のいじけ方に似ていた

だから、ある種、たくろうは、オスの気持ちがわかった

メスは、家の中でちやほやされた、それはそれで良かった

たろう、は、よく、アコースティックギターを弾いて、哀しい曲を歌いながら泣いていた、1人では寂しいので、メスを部屋の中に入れて永遠弾いて泣いていると、近づいてなぐさめに来たことがあった、その時に万感な気持ちになった

オスは寝ていた

そういう意味では、感受性が強いのは、メスなのだろうか、ただ、オスも精一杯生きた

たろう、が、感情的になって、大きな物音をする騒ぎを起こした時、たろうは、その時知らなかったが、メスはあまりに驚いて外の塀を飛び越えて、外をダッシュして、車に轢かれてしまった、

たろう、は、翌日、びっこ、をひいている、メスを見て、どうしたんだろう、と思ったが、そういう事情だった

エサ当番という意味では、最初の頃は、たろう、も、面倒臭がっていたが、しだいに自分からあげる癖がついた、特に、兄弟が家を離れている時期は、父・母を制して、「僕がやるよ」と云った

鳩やカラスなどの鳥が、メスに食われることがあった、そのあと始末を、家族皆だが、たろう、もした

幼い時には、たろう、のかわいがっていた、ぬいぐるみ、を、オスが強奪したことがあった、バラバラにされてしまうのが嫌だったが、泣いて追いかけて、なんとか、取り返した

オスが、寿命を迎える頃には、地下でオスを管理して、たくろうは、おむつ交換などを、あまり率先してやらなかった

メスは、オスに近づくと、お尻の穴などを舐めて、少しは軽くしてやろうと頑張っていた

オスは、ミイラのような顔をして、死んでしまった

メスも晩年は、目が不自由になり、あらゆる機能が衰えていた

たくろう、が、雑巾で手を拭いてやろうと、いきなり手を掴んだ瞬間、メスはいきり立った、急に、手をとられて怖かったのであろう、痙攣すると、ガクガクガクと歯を閉じた、もし、ここに指があったら、手を噛みちぎられていたかもしれなかった、正直、たくろう、は、冷めてしまった、いきなり手を掴んだのは悪いが、ここまで育ててきたのに、こんな態度をとられるなんて...、しばらくはそんな気持ちだった

やがて、メスは、眠るようにして死んだ

メスの火葬車が、連れて行った

たくろう、は、泣いた

今も、姉から送られた、軽井沢の庭で映っているメスの写真がある、

やはり、かわいい

ただ、俺が、動物を飼いたくない理由はただ一つ、面倒臭いからではなく、犬であれ、猫であれ、ぬいぐるみ、を、バラバラにされたくないからだ

もし、飼うなら、ケンケンのぬいぐるみ、くらいだろう

今日も、写真のメスが「たくろうくん」と、吠えている、言っている...

「完」